

白井 勝也（しらい・かつや）先生

株式会社小学館 取締役副社長

【現職】 株式会社 小学館 取締役副社長

【本籍地】 東京都

【生年月日】 1942 年 生まれ

【略歴】

昭和 43 年 3 月 立教大学 文学部 卒業

昭和 43 年 3 月 株式会社 小学館 入社

昭和 56 年 5 月 ビッグコミックスピリッツ 創刊編集長

平成 6 年 5 月 株式会社 小学館 取締役就任

平成 11 年 5 月 同 社 常務取締役就任

平成 13 年 5 月 同 社 専務取締役就任

平成 21 年 5 月 同 社 取締役副社長就任

現在に至る



〈講義概要〉

株式会社小学館の取締役副社長として出版業界の第一線で活躍する白井勝也氏が、出版メディアの現状と新たなビジネスモデルについて講義を行った。

講義ではまず、日本のコンテンツ産業の現状やデジタルコンテンツの市場規模について詳細なデータを示しながら分かりやすく説明。また、海外の日本のコミック事情について、ネット上の海賊版問題等によりマネタイズが難しく対策が求められている実態を示した。

さらに、出版産業の今後の課題として、出版社に著作権隣接権を設定することや、電子書籍の本格的な到来までにデジタル化に対応した新たなビジネスモデルを構築することが求められていると伝えた。デジタル化の進む中、今後の出版産業のあり方について現状と課題を見直し、分析するきっかけを学生に与えた。

加えて、「コンテンツ創りは人の心に寄り添う仕事である」ことや、「読者の心の奥底に届くコンテンツを創り育てていくことが出版社の仕事である」ことなど、コンテンツ創りへの白井氏の思いに学生は感銘を受け、コンテンツ産業に携わる魅力を実感した。

《受講生の感想》

●デジタル・コンテンツの時代の到来により、書籍が大打撃を受けているという印象であったが、お話を伺う中で両者が共存し、使い分けが今後大切になってくると感じた。時代の変化に応じて柔軟に対応していく姿勢が今後より求められると思います。

立命館大学・法学部・3回生

●違法ダウンロード、海賊版をなくすためにはどうすればいいのかということがこれからの大きな課題になっているのだと改めて思いました。コンテンツを作るということは人の心に寄り添っていくことという言葉が心に残りました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●電子書籍などのデジタルコンテンツの拡大によって、書籍、出版の市場が変わってきていることが分かった。消費者のライフスタイルの変化によって出版メディアは様々な対応が求められており、書籍（紙）の売り方も変わってきている。今後本屋はネット販売や電子書籍とどのように戦っていくのが課題となっていくと思う。

立命館大学・産業社会学部・2回生

●人の心に寄り添うという言葉は私のとても好きな言葉です。今までは、ドラマやマンガを一視聴者や購読者としてしか触れていませんでした。しかし、その制作の背景にある制作者の思いや意図を考えて、これからの作品をより深く味わってみたいです。

立命館大学・産業社会学部・4回生

●小学館は映画やテレビなどに関わっていて幅広い分野に力を入れていることが分かった。デジタル化という大きな変化に対応していく必要もあり、どのように市場を拡大させていくのか、多角的な見方が出版社に求められていると思う。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●誰もが良いコンテンツを求めている、その「コンテンツ」を作ることが仕事。「キラーコンテンツ」をいかに作っていくかがカギとなる。というお話を聞いて時代の変化・人のライフスタイルが日々変化する社会において良い「コンテンツ」を提供するというのはとても難しいことなのだろうと思いました。

立命館大学・法学部・3回生

